

マッケンジー・ソープの世界展

4月6日(水)~17日(日) 奈良県文化会館D展示室

AM9:00~PM6:00〔休館日は11日祝〕



2002年4月…、13年間の無認可共同作業所時代を経て、この東市地区という地域から「こっから」として新たに歩み出してから、来年度10年目を迎えることとなります。

こうして無事に節目の年を迎えることができますのも、本当にたくさんの方々の支えがあってこそと心から感謝申し上げます。そこでこぶしの会としては、2011年度をこれまでの10年間の積み重ねを土台に、次の10年に向け新たな目標を掲げ再スタートする1年と位置づけ、様々な事業に取り組んでいきます。

その第1弾として、4月6日(水)より、奈良県文化会館にてイギリスの画家であるマッケンジー・ソープ氏の原画展を開催いたします。こぶしの会では過去2回チャリティー絵画展を開催しましたが、今回は、それとは大きく異なる内容となっています。※詳細は同封のチラシをご覧ください。

- これまでは国内外の多くの作家の作品を集めた作品展であったのに対し、今回はソープ氏単独の作品展であるということです。
- そしてソープ氏は、自らも発達障害のひとつである“ディスレクシア（難読症）”という障害を抱え、周囲の無理解による絶望を乗り越えながら美術の才能を開花させ、世界的な評価を得たという経歴の持ち主でもあります。
- そういった経過から、同じ障害を抱える子どもたちへの励ましや障害者福祉の理解と啓蒙をライフワークとしているソープ氏とともに、今回はワークショップの開催も企画しています。
- LD親の会「パンジー」さんのご協力を得ながら、15名程度の子どもたちとソープ氏が一緒に絵を描くという企画で、今からどんな作品が生まれるのか、ワクワクします。
- 関西では初めてとなる「原画展」です。ポストカードや画集、作品の販売もあります。またこぶしの会の活動を知ってもらうコーナーや販売も行います。皆様のご来場をお待ちしています。

現在こぶしの会では、この絵画展成功をめざし、チラシ配布やポスター掲示・チケット販売・会期中の受付など、ご協力いただける方を募集しています。

お問い合わせは、

こっから古木 (0742-63-6765) まで。

ぜひともご協力をよろしくお願いたします。



学習障害の画家 マッケンジー・ソープ氏に聞く



想像できるなら、
実現できる



とらえ方で
「暗」を「明」に

子どものころ、私は「顔のない人間」でした。簡単な単語さえ読み書きできず、友だちも先生さえも「怠け者」「頭が悪い」と責めました。私は自分を「駄目な存在」だと思っていたのです。

私は家でも外でも、いつも絵ばかり描いていました。貧しい労働者だった父は私がパステルで立てる「コツコツ」という音に立ち、「やめろ」と私をたたきました。もし私がサッカーに夢中だったら、ほめてくれたでしょう。絵を描いても誰もほめてくれません。逆に「変なやつだ」とばかにされました。

十五歳で働きに出ました。何の資格もない私に良い働き口はありません。仕事を転々としてきました。そのころは「私は〇〇だ」と誇れるものは一つありませんでした。本当に最悪の時期でした。

転機は二十歳のころ。友人が美術学校入学を勧めてくれました。願書はひどいものでした。スペルは間違いだらけ。論文はまったく書けません。でも絵は何千枚も描きためていました。それで無事入学できたのです。

その後も自信は持てませんでしたが、現代美術と出会い、虜になりました。そのころ、妻に出会いました。妻はこう言って励ましてくれました。「想像しなさい。想像できることは、実現できる可能性があるということ。不可能ならば想像もできないはずですよ」

私はすべての作品に「明」と「暗」の両方の意味を込めています。

例えば、ヒナギクの群落の中をダッフルコートを着た顔のない子どもが大きなハートを運んでいる絵。この子はかつての私です。誇りを持って、ありふれたヒナギクよりも小さな存在です。その子は大きな「ハート=愛」を荷車に乗せて運ぼうとしています。よく見ると荷車の車輪はスポークがありません。運ぶのは非常に困難です。でも子どもは愛を運ぼうとしています。それはとても強い意志なのです。

この世界は最も美しく、最も醜いところ。 「明」と「暗」は正反対のように見えますが、一つのもので、「明」の中に「暗」があり、「暗」の中に「明」がある。とらえ方で「暗」も「明」に変わるので。

大人のみなさん。子どもを愛してください。守ってください。導いてください。「ダメだ」「できない」と頭ごなしに責めないでください。

発達障害などさまざまな困難に苦しむ人には、私の妻の言葉を贈りたい。それは今も私の支えになっています。「想像しなさい。想像できることは実現できる可能性があるのです」(談)

2008年6月11日(水) 西日本新聞より転載

プレ絵画展

KIZUNA Café

3月1日~31日

一足早くソープさんの絵画をご紹介します。(無料)

お近くにお越しの際はどうぞお気軽にお立ち寄り下さい。

住所/奈良市東向商店街内 奈良県女性センター1F

営業時間/9:30~20:00

定休日/月曜日(その日が祝日の場合は翌日)

電話/0742-26-2030

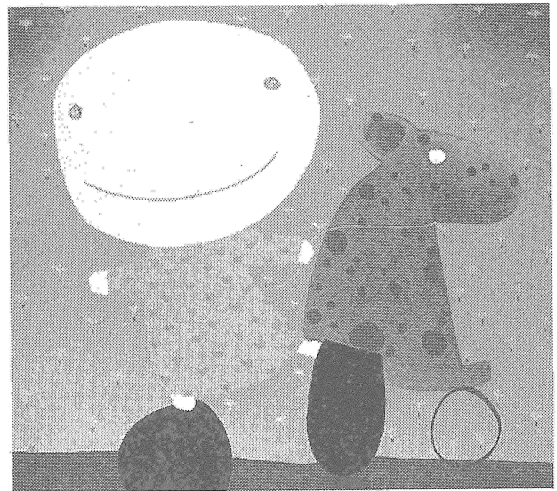
発達障害への理解深めて

「社会福祉法人こぶしの会」10年記念企画

多機能型事業所「コミュニティワークコックから」（奈良市古市町、古木一夫施設長）などの運営を通して障害者の社会参加を支える「社会福祉法人こぶしの会」（藤井正紀理事長）が今年、法人設立10周年を迎える。記念企画第一弾として来月、発達障害のひとつであるディスレクシア（難読症）のある画家マッケンジー・ソープ氏（1956年、英国生まれ）の展覧会を開催。同法人はこの展覧会を「誰もが住みよい社会の実現」という理念の発信と発達障害への理解を広げる場にしたと考えている。

（小幡直子）

マッケンジー・ソープの「風に乘る希望」



同展は関西初の原画展。「無限の可能性」を象徴する頭の大きな子どものモチーフで知られる明るい雰囲気のある作品。陰うつな中にもひと筋の希望を感じさせる作品などソープ氏の生きざまが込められたパステル画約50点と版画、スカルプチャー（立体）約30点などを展示する。会期に合わせ、ソープ氏も来県。子どもたちを対象にワークショップも開く。

見えにくく、困難なことの内容や程度も多様なため、周囲の誤解や無理解が社会参加の壁となることも多い。同会の角谷久美子副代表は「展覧会が発達障害への理解を広げるきっかけになれば」と話している。

◇◇◇

「マッケンジー・ソープの世界展」（奈良新聞社など後援）は来月6～17日、奈良市登路町の県文化会館で開催。10日13～14時、サイン会。11日休館。一般700円、中学・高校生500円、小学生以下無料。前売りは各

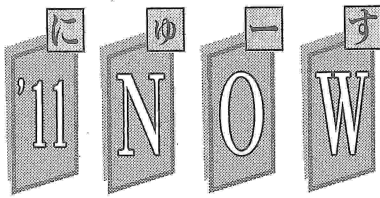
難読症の来月、関西初の原画展

支援広げるきっかけに

ソープ氏は幼いころ、知的な遅れはないのに読み書きだけが困難な障害のため、無理難な周囲から「怠け者」



マッケンジー・ソープ氏



と責められた。やがて自信を失い「自分などいない方がよい」と思うようになったとい

う。転機は20歳のとき。友人の勧めで美術学校

に入学し、才能が開花。各国で展覧会を開催し、2000年には英国の画廊組合1700社が選ぶベストセラーアーティストになった。

た。

後援団体には発達障害の子を持つ親でつくる「奈良LD親の会パインジー」も加わり、ワークショップのコーディネートネットなどを担う。

発達障害は外からは

「マッケンジー・ソープの世界展」（奈良新聞社など後援）は来月6～17日、奈良市登路町の県文化会館で開催。10日13～14時、サイン会。11日休館。一般700円、中学・高校生500円、小学生以下無料。前売りは各

るようになった。

ただ、法廷で真朱受悪化から生まれた2人

数 エア の基 の奈 (か) の功 の聖 路聖 (孝) は6